

事業概要

【事業目的】

- ・ 本事業は、都市魅力創造戦略（平成 24 年 12 月策定）における重点エリアのマネジメント〔御堂筋フェスティバルモール化〕の主要プロジェクトの 1 つに位置づけられたものである。
- ・ 大阪のまちを 1 つの大きなミュージアムと捉え、そこに存在する「生きた建築」※を通して、国内外の人を惹きつけるクオリティの高いにぎわいへとつながる大阪の新しい魅力を創造・発信することを目的とする。
- ・ 平成 25 年度から、戦略のシンボルイヤーである平成 27 年度に向けて、建物選定や情報発信に関する取組みを進め、「生きた建築」を通して見えてくる、時代の流れや多様で豊かな都市の物語性を大阪の新しい魅力として創造・発信することで、「生きた建築ミュージアム」の実現をめざす。

【主な事業内容】

○ 建築物等の選定

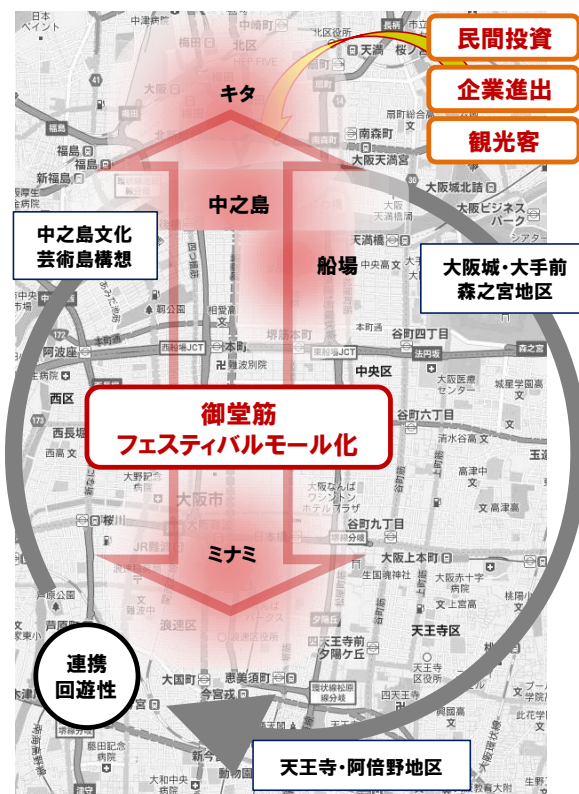
- ・ 都市魅力創造に資する建築物等を選定（有識者会議の意見を踏まえ、所有者の同意のもと、市長が選定）。
- ・ 生きた建築ミュージアム・大阪セレクションとして公表

○ 選定した建築物等の再生

- ・ 魅力向上のための建築物等の再生整備支援制度の創設（選定した建築物等の特徴である装飾やデザインの再現・修復といった外観整備費等補助）

○ 活用

- ・ 民間と連携した「生きた建築ミュージアムの実現」に向けた取組の推進



※「生きた建築」とは、この事業で定義した『ある時代の歴史・文化、市民の暮らしぶりといった都市の営みの証であり、様々な形で変化・発展しながら、今も生き生きとその魅力を物語る建築物等』をいう新しい概念。

“Living Architecture” is meaning that it still maintains its liveliness and essence through various changes and developments. It is proof of various aspects of the city from a certain time period, including its history, culture, and everyday lifestyle of its citizens.

これまでの具体的な取組み（平成 25・26 年度）

○ 事業スキームの構築

- ・ 生きた建築ミュージアム事業基本要綱を制定（H24.4 月）し、事業の基本的な方向を定めるとともに、様々な分野（都市魅力、都市計画、建築、建築史、照明デザイン、グラフィックデザイン、商業プロデュース、観光）から成る生きた建築ミュージアム推進有識者会議の設置等を行い、事業実施向けのスキームを整えた。

○ 建築物等の選定（生きた建築ミュージアム・大阪セレクションの選定）

- ・ 建築としての質の高さだけでなく、使われ方や変化・発展の歴史等も踏まえるとともに、選定全体から時代の流れや多様で豊かな都市の物語性が浮かび上がって見えるよう、様々なカテゴリーから、2 ヶ年で全 50 件を選定・公表した。（H25 年度 28 件、平成 26 年度 22 件）

<生きた建築ミュージアム・大阪セレクション>（順不同）
 通天閣／梅田スカイビル（新梅田シティ）／大阪倶楽部／中央電気倶楽部／リーチバー（リーガロイヤルホテル）／堂島サンボア パー／マツラ（大阪駅前第 1 ビル）／大阪ガスビル／日本生命保険相互会社本館／御堂ビル【竹中工務店大阪本店】／御堂筋ダイビル／本願寺津村別院【北御堂】／ダイビル本館／三井住友銀行大阪本店ビル／ルポンドシエルビル【大林組旧本店】／北浜レトロビルディング／江戸堀コダマビル【旧児玉竹次郎邸】／日本聖公会川口基督教会／大阪証券取引所ビル／生駒ビルディング／武田道修町ビル／船場ビルディング／原田産業株式会社大阪本社ビル／新井ビル／青山ビル／伏見ビル／堺筋倶楽部／大阪商工信用金庫本店ビル【旧本町ビルディング】／輸出繊維会館／北野家住宅／清水猛商店／芝川ビル／長瀬産業株式会社大阪本社ビル／日本基督教団大阪教会／今橋ビルディング【旧大阪市中央消防署今橋出張所】／大丸心斎橋本店ビル／南海ビル【高島屋大阪店ほか】／高島屋東別館／純喫茶アメリカン／ギャラリー再会／食道園宗右衛門町本店ビル／味園ユニバースビル／浪花組本社ビル／オーガニックビル／船場センタービル／阪急三番街／梅田吸気塔／スリープカプセル（カプセルイン大阪）／西長堀アパート／グランサンクタス淀屋橋



○ 再生（大阪セレクションの魅力向上のための再生整備補助）

- ・ 生きた建築としての魅力向上、より積極的な活用・魅力発信、再生促進（再生モデル）といった視点で、大阪セレクションを対象に必要な再生補助を実施している。
- ・ 3 年間の時限制度（H25～27 年度）で、補助による再生後には、適切な維持管理や建物公開等の実施を義務化している。（H25 年度 1 件、平成 26 年度 1 件）
 [補助率 1/2、上限 800 万円、外観等、常に公開されている部分の再生にのみ適用]

○ 活用（魅力発信イベント等）

「生きた建築ミュージアム 2013・大阪セレクション×実証実験」（H25 年 11 月 23・24 日）

- ・ 次年度以降の本格的な建物公開イベントの実施に向け、大阪セレクションの一部で特別公開、ツアー、セミナー等、10 のプログラムを実施。様々な案内・公開の仕方を実験し、より効果的で魅力的な建物公開のあり方を検証した。

「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪 2014（イケフェス大阪）」（H26 年 11 月 1・2 日）

- ・ 大阪セレクションを中心に、普段はめったに入ることができない「生きた建築」を無料で公開し、多くの方々にその魅力を体感いただくことを目的とする建築イベントを開催。
- ・ 建物の特別内部公開を基本に、専門家や建物所有者等の解説で巡る見学会やセミナー、コンサートなど、参加者が様々な体験を通じて、生きた建築の魅力を体感できる 77 のプログラムを実施した。日本全国から約 1 万人が参加した。